2023年5月15日　月刊　不屈　1989年5月8日第3種郵便物認可　Ｎｏ．587付録1

「麗江古城群と玉龍雪山」（中国・雲南省）
菅谷　幸則　画

宮崎県版
No. 337
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
宮崎県本部
〒880-0031
宮崎市船塚3-193
電話　0985(26)4224
FAX　0985(20)3154
郵便振替口座
02070-9-11382

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対すること

二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること

三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

相川勝六（戦前第29代宮崎県知事、戦後県選出国会議員）について(13)

野崎　眞公

今回で〝一服編〟の最終回にしようと思っていましたが、太平洋戦争の「戦陣訓」についても入れなければと思いなおし、「戦陣訓」についての短歌及び関連した話を紹介し、戦争の実態について考えてみたいと思う。

(九) 戦陣訓…東条英機陸軍大臣が全陸軍への戦闘鼓舞を促した訓令！

。遺骨さえ還るを許さぬもののふ（＝軍人）の
　あはれ厳しきその訓（をし）へはや　（藤原　彊）

。御勅諭集戦陣訓とを箱に納（い）れ枕頭台（ちんとうだい）
　の抽斗（ひきだし）にしまふ　（久保辰雄）

（御勅諭集＝軍人勅諭など天皇が下した詔書や勅語を集めた本、枕頭台＝枕辺においた台のこと）

。ひたすらに戦陣訓を夜毎（よごと）読む
　此の若者もやがて兵となるべし　（斎藤福一）

。闘いは五年に到り陣中訓
　発せられたることをぞ思う　（大平善梧）
。総親和道義外交八紘一宇
　宣（の）らす言葉ののどけきに過ぐ　（中山隆祐）
。戦陣訓をレビュー漫才にとりあげて
　ここの巷に利をぞ営む　（中山隆祐）

〔総親和道義外交八紘一宇＝すべての国との提携と道理を重んじる外交による、世界の統一。世界を一つの家にという意の「八紘一宇」は、第二次世界大戦中、日本の海外侵略を正当化するために用いられた。レビュー＝音楽、舞踊、寸劇などで構成されるショー。原田勝正氏〕

＊（「八紘一宇」の歌は、初出である）。

〔「戦陣訓」について〕昭和十六年一月八日、東条英機陸相が全陸軍に「最精強の皇軍錬成」を全陸軍の将来を想い通達した訓令である。日中戦争拡大とともに日本軍は急速に膨張。未曽有の兵員を擁したが、訓練・統制力の低下により、大陸兵士の軍紀・風紀の乱れは、軍上層部の頭を悩ましていた。異論もあったが皇軍兵士の戦闘力を高めるために「戦陣訓」は出されたのである。関東軍出身の東条にとって、大陸の兵士の士気低下は許しがたく、「軍人勅諭」や「典範令」では不足と思い通達した。（参考：『二〇世紀全記録』講談社S・62）。

＊＊＊

「戦陣訓」は序のあとに本訓が三部から成り、最期に結びがある。「生きて虜囚の辱めを受けず　死して罪過の汚名を残すこと勿れ」（本訓その二第八　名を惜しむ）は、戦後生まれの筆者も元兵士の教員や先輩・知人から幾度となく聞かされ、考えさせられた言葉である。

「戦陣訓」は、「皇軍兵士が座右において実践服行すべき昭和武人の鏡」とされ、太平洋戦争を通じて陸軍将兵の規範となったが、本訓其の一には「第一皇国、第二皇軍、第三軍紀、第四團結、第五協同、第六攻撃精神、第七必勝の信念」と記され、本訓其の二は、「第一敬神から孝道、敬禮挙措、戦友道、率先躬行（そっせんきゅうこう＝人に先立って自ら行うこと）、責任、死生観、名を惜しむ、質実剛健、清廉潔白」の十項目が記されている。

本訓其の三で「第一戦陣の戒、第二戦陣の嗜（たしなみ）」を説き、最期の「結」となっている。〔いわば「葉隠武士道」に近い立場で軍人の姿勢を正そうとしていると、原田勝正氏は解説している〕。（戦陣訓は陸軍教育総監部第一部第一課精神教育班が作成し、島崎藤村が校閲し、志賀直哉・和辻哲郎にも目を通してもらったという。『参考資料：『昭和時代』一五年戦争の資料集　角家文雄著　学陽書房一九七五年四月第四班刷）。

本訓其の二「生きて虜囚の辱め」云々の言葉は、日本特有のモラルと思うが、戦争末期に南方各地で日本兵が、この言葉を信じて玉砕を重ねたことに、当時の軍・政府はどう反省・教訓にしているのか、敗戦後七十八年になるがどういう反省がなされたのか、その記録があるのか私は知らない。

※先月、中学時代の旧友Tさんが一枚の「軍事郵便・絵葉書」を持参してきた。軍事郵便を直にみたのは始めてである。その時の話を続けて書きたかったが、紙面の都合で、まことに残念ながら次号にしようと思う。

次号につづく

自ら語る〃拷問〃㈣　馬場園 孝次

警視庁の特高課から三人きて、私を二階の取調室に呼び出した。(略)私は、彼らに何も言いたくないし、答える必要もなかった。そこで、自分の名前さえも黙っていた。(略)

いきなり私の頭に手を、髪の毛をむずとつかんだ。

(略)留置場では、座ろうとしても股がはれ上がって、足がまがらない。手洗いにゆくと、しゃがむことができない。特高は「手前ら、国体を変革しようなんて言ったって、日本の国体は天皇陛下が中心になっているぞ！万世一系の天皇を守ることは、どうすることもできない国民感情だぞ！」

※中本たか子(作家)「この非常なる風土」より
一九三〇年、市谷刑務所に

終わるにあたって

この間、四〇数名以上の女性の治安維持法犠牲者の中から、ほんの一部を投稿させていただきました。

女性で最初の犠牲者が九津見房子さんだったとか、一才二ヶ月で母に背負われたまゝ両国署に留置された四津谷伸子さんのことなど、はじめて知ることができました。

先の戦争で最後の海軍大将・井上茂美は戦後次のように述懐しています。

〃いまでも悔やまれるのは、共産党を治安維持法で押さえつけたことだ。いまのように自由にしておくべきではなかったか。そうすれば戦争が起きなかったのではあるまいか！〃

映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯
延岡での上映会の感想（続き）をご紹介します。

・最初は重い雰囲気が続いたが、後半、千代子の頑張る姿に胸が熱くなった。今では当たり前の主権在民、男女業平等はこのような先人たちのおかげである。（60代女性）

・理不尽なことが多くある世の中です。それを変えるために頑張った人たちがいて、今の世の中になっています。より良い世の中にしていくために少しでも力になりたいと思う。（70代女性）

・論点がたくさんあり過ぎて、その分感動の種類も多くあった。現在にも未来にも元気の出る作品だと思います。（60代男性）

・特高のことなど大勢の人に知ってほしい。いろんなところで上映してほしい。（70代女性）

・今なんだかあやうい時代、みんな不安になっていると思う。戦前は怖い時代だったと思う。自分ならすぐ根を上げるだろう。特高が復活せぬことを願う。（70代女性）

・伊藤千代子さんのおかげで今の私たちは生きている。何も知らず時代が過ぎている。自分が情けない。（80代女性）

・先人たちの運動があり、今日の主権在民があるということがよくわかりました。（50代女性）

・信念に感動しました。（80代男性）

・特高の幹部が戦後も知事や職員となって活躍できたことの民主主義の不徹底さを、日本の歴史と社会の中で十分に吟味しなければならないと思います。そうでなければまた同じ誤りを繰り返してしまうと思います。（50代男性）

・本当に今の世の中、民主主義といえるのだろうか。ボヤボヤしていたら逆戻りしそうな不安があります。何が正しいのか学び続けたいと思います。ありがとうございました。（70代女性）

・特に前半は教条的な描写がめだったが、後半は人物が詳しくなった。小林多喜二は有名だが女性たちの存在は知られていない。もっと知られるべきだ。（50代男性）

・内容が難しかった。（70代女性）

・100年も前から若い女性たちが命がけで女性解放の闘いを進めてきたのに、日本は現在に至っても女性の社会進出は先進29ヵ国の中で最下位2番目という。未だにそれをはばんでいる自公政権を許すことはできない。（80代男性）

・20代で小林多喜二の映画を見た。60歳になって感動が違う。（60代男性）

・戦争のない平和を続けていきたい。この映画を見てこういう時代をぜったい作ってはいけない。（80代男性）

※次号につづく。